



大阪部会(第 60 回)

日 時: 2018 年 9 月 22 日(土) 18:00~20:20

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 60 回の大阪部会の出席者は 17 名。

(1) 最初に、篠原総一代表(京都学園大学)から、経済教育ネットワークの最近の動向が報告された。「先生のための夏休み経済教室」は 11 年目を終え、その間にネットワーク関係者の教材作り、授業の教え方などの室が格段に上がっていること、また一方でその成果を現場教員へ伝達することがまだ不十分であることなどが述べられた。鈴木深氏(東証券取引所)からは今年の経済教室に対する参加者からのアンケート結果が紹介され、それを受けて河原和之氏(立命館大学非常勤講師等)らから、大学と現場教員の協力関係の深まりや大阪と東京の温度差縮小などが指摘された。また、ネットワーク部会での研究を通して、教材開発の範囲が身近な事象に留まらず経済概念にまで広がってきたとのコメントがあった。

(2)奥田修一郎氏(大阪教育大学非常勤講師等)からは二つの報告があった。まず中学校社会科は小学校社会科や中学校家庭科との連携を進めてはどうかという提案である。その理由は、家庭科には収支計画や消費者の権利など公民と重なる内容が含まれているからである。また、小学校社会科の、特に産業学習の内容をみると、中学校社会科で求められる「見方・考え方」がすでに含まれているからである。小学校段階ですでに、公民分野の見方・考え方だけでなく、地理的な見方・考え方や歴史的な見方・考え方も身につけるように指導要領では意図されている。そうであれば、中学校社会科で小学校からの連続性をもっと活用することはできないだろうか、というのが奥田氏の考えである。しかし出席者からは、小学校の社会科にそこまで期待することは難しいとの意見が多かった。

奥田氏からのもうひとつの報告は「経済分野のカリキュラム素案」であり、公民教科書の経済単元の目次案にあたるものが示された。経済って何?から始まり、家計、企業、金融、政府、貿易という構成のカリキュラム案である。奥田氏の長い経験が活かされ、最近の話題も取り上げられたものになっており、書籍化を期待する声があがった

(3)李洪俊氏(大和川中学校)からは、全国公立高校入試問題(2018年)の分析結果が報告され、代表的な入試問題が紹介された。効率と公正、対立と合意に関する問題が減ったこと、需要供給曲線のシフトの問題がほとんど見られなくなったこと、テキストでの扱いが少ない為替相場や国際貿易の問題が少なからず見られること、などが指摘された。その他、グラフや数字の読み取り問題、文章で答えさせる問題の増加が一段と顕著になっている点など、非常に有用な資料が提供された。

(4)山本雅康氏(奈良学園中学高校)からは、財務省近畿財務局の協力をえて「財政教育プログラム」を実施したことが報告された。「日本の財政について～自分の将来のために日本の未来を考える～」をテーマに、現代社会の補習として行われた授業である。財務省講師からの説明、資料に基づくグループ討議、生徒によるプレゼン、講師との質疑・意見交換、まとめ評価の記述という流れで構成され、



「主体的・対話的で深い学び」を実践した授業となった。

(5)大塚雅之氏（三国丘高校）からは、「新科目「公共」における「起業」に関する単元開発」が発表された。段階的に構成された6時間分の授業案となっており、まずギフト交換ゲームによって、利己的にふるまうよりも協働の意識を持った方が全体の利益が高まる場合があることを体験させる。次に過去にあったが今はなくなった仕事、今はあるが将来なくなりそうな仕事、将来新たに生まれそうな仕事を、調べ考えさせることを通して、職業選択の際に将来見通しが大事であることを自覚させる。そしてその後に、起業によってどれほどの物やサービス、そして仕事が生み出されているかを確認し、起業を支える金融の仕組みや、AIによる省力化と高齢化による人手不足の問題などにも話題を広げ、発表および質疑を行わせるような授業になっている。まだ構想を始めたところであるため、流れがよくないところがあるとの指摘もあったが、参加者からの評価は高く、実践後の報告が期待されている。

(6)最後に中山義基氏（京都府立園部高等学校・附属中学校）から、今後予定している実践計画が披露された。夏の経済教室（東京中学）で発表された「人口減少社会における雇用」の問題を扱った授業の進展具合や、「自然災害と防災」「地方創生」など、興味深い複数のテーマについて今後の授業計画が述べられた。そのうち、80歳から起業した女性の新聞記事をネタにした授業実践が報告され、出席者からは、新聞を授業で活用する場合の準備や授業運営について多くの助言があった。

（文責 野間敏克）

次回開催予定：2018年12月1日（土）、時間は18:00～20:00、場所は未定。